

## 研修会報告

### “痛みと薬”

講演者：医学博士 鈴木一弘氏

研修担当理事：角道 高明  
小暮 美怜

9月30日(金)、ワシントン日本商工会は、医学博士の鈴木一弘氏をお迎えして、痛みと薬について、オンラインと対面のハイブリッド形式の研修会を開催しました。



鈴木氏は米国立衛生研究所勤務も含め大手製薬会社から創薬ベンチャーまで幅広く経験された薬の研究開発の第一人者です。人類が痛みにもうどう対処してきたかについて解り易い言葉で解説して頂きました。同博士によれば、人類の痛みとの闘いの歴史は古く、紀元前 3,000 年以上前からメソポタミアでケシを、中国で麻を、インカ帝国でコカを栽培して、祭事や医療等の用途として使用していたそうです。人類は鎮痛効果を求めてこれまでも多くの鎮痛薬を研究開発してきましたが、鎮痛作用が強くて長期服用に適した薬剤はまだ残念ながら無いそうです。博士は米国の今日の問題として、米国での大麻(マリファナ)の合法化の歴史、大きな社会問題となっているオピオイド汚染についても言及され、我々にとっては普段あまり馴染みのない米国における薬の問題についても色々な示唆を頂きました。講演会終了後のオフラインの懇親会でも、鈴木氏と参加者との

間で活発な意見交換が行われました。

オンラインで参加された会員からの謝意やメッセージが多く寄せられ、大好評に終わりました。我々にとって、大変参考になるディスカッションができたと思います。

以上